



入賞者で集合写真。大量の協賛品が並び。

Arena Special

第14回 六会ホースショー2012

2012年1月14日

日本大学馬術部 馬場



六会ホースショーは、ちょっと変わった学生馬術競技会だ。基本的に大学で乗馬を始めた選手を対象にしている。ふだんは大会になかなか参加できない選手たちにも活躍の場を、として14年前に始まった。

2012年で14回目を迎える六会ホースショーは、神奈川県藤沢市にある日本大学馬術部で開催された。大学から乗馬を始めた選手を対象としたこの競技会は、日々の練習の成果を発揮し試合に出る楽しさを知ってもらおうと14年前にスタートした。元々、日本大学馬術部の学生のために行われたのが始まりだった。徐々に参加大学が増え、今年は過去最多となる11大学(慶応大学医学部含む)53名がエントリー。部班競技、馬場馬術競技第2課目、TREC競技、障害飛越競技60cm及び90cmの5競技が行われた。2011年末に改修された日大馬術部の馬場を一杯使い、競技経験の少ない選手でも安心して試合に挑むことができるTRECコースと

上/選手宣誓。
中/参加選手が勢ぞろい。
下/競技前の「馬見せ」にて。

障害コースが設置された。六会ホースショーに登場する馬はすべて日大馬術部所属馬で、抽選による貸与馬で競技が行われた。

2011年から行われるようになったTREC競技は、日大馬術部の広々とした敷地を有効に使って行われた。馬に一人で騎乗するという項目から始まり、狭い通路をはみ出さないように誘導、バランスを重視するステップアップ障害、ステップダウン障害、常歩でのタイムレースなどを行う。これらの過程で馬をしっかりコントロールできているかどうか、騎乗から始まり下馬で終わるという基礎的な要素を審査した。障害飛越競技60cm、同90cmにはハンターシートが用いられた。これはコースに走行に必要な騎乗者の姿勢、障害への誘導、正しい扶助、障害上での正しい随伴を審査。総減点が少なく、ハンターシートの総得点の高い選手が上位となる。

団体総合優勝は、日本獣医生命科学大学が合計930ポイントで、前回の845ポイントを大幅に上回って二連覇を果たした。



上/部班競技・60cm障害で1位となった佐藤里江。
下/2課目で1位となった日本大学の佐々木愛。

Arena Special

第14回 六会ホースショー2012

2012年1月14日

日本大学馬術部 馬場



上/TRECのステップアップ障害にて。
左/日本獣医生命科学大学の酒井敦弘はTREC競技で1位。

最優秀選手には、日本獣医生命科学大学の1年生・佐藤里江が選ばれた。佐藤は「今回の六会ホースショーでは、部活、障害飛越60cm競技で共に良い結果を残すことができ、大変嬉しく思います。試合経験がほとんどなく、とても緊張しました。桜夢と桜心という素晴らしい馬にめぐり逢い、日頃の成果を出せたように思います。これからも上達できるように精進してまいりたいと思います。ありがとうございました!」とコメント。馬歴は2年と浅い経験ながらも他校の馬に乗って日頃の成果を存分に発揮した。

また今回の競技には、さまざまなメーカー・ショップ・個人などから豪華な商品が数多く提供された。日々、練習に励み、結果を残した際に手にする賞品は、一段と嬉しく感じられることだろう。そういったことを経験できるのもこの競技会の良さである。また今回の競技会では怪我人も出ずに無事終わった。次回の六会ホースショーがより良い大会になるように努めていきたい。(文中敬称略)



上/こちらはTRECの常歩区間だ。
左/日大馬術部の敷地内には生垣障害である。



2011年末に改修されたばかりの日本大学馬術部の馬場。

- 団体優勝 日本獣医生命科学大学 総得点930点
- 最優秀選手 佐藤里江 日本獣医生命科学大学 総得点350点

●第1競技部班競技

| 順位 | 氏名 | 所属 | 乗馬 | 総得点 |
|-----|------|------------|-----|-----|
| 第1位 | 佐藤里江 | 日本獣医生命科学大学 | 桜夢 | 89点 |
| 第2位 | 廣兼佑亮 | 早稲田大学 | スワン | 78点 |
| 第3位 | 岡幸穂 | 筑波大学 | 桜皇 | 76点 |
| | 森田薫子 | 日本大学 | 桜皇 | 76点 |

●第2競技馬場馬術競技第2課目

| 順位 | 氏名 | 所属 | 乗馬 | 総得点率 |
|-----|-------|------------|----|---------|
| 第1位 | 佐々木愛 | 日本大学 | 桜夢 | 60.000% |
| 第2位 | 鎌田夏実 | 日本獣医生命科学大学 | 桜恋 | 59.215% |
| 第3位 | 安東圭奈美 | 麻布大学 | 桜心 | 57.451% |

●第3競技TREC競技

| 順位 | 氏名 | 所属 | 乗馬 | 総得点 |
|-----|------|------------|----------|-----|
| 第1位 | 酒井敦弘 | 日本獣医生命科学大学 | 桜翔 | 99点 |
| 第2位 | 近藤和 | 東京農業大学 | 桜翔 | 96点 |
| 第3位 | 佐島貴之 | 麻布大学 | リワードプレゼン | 94点 |

●第4競技障害飛越競技60cm

| 順位 | 氏名 | 所属 | 乗馬 | 総得点 |
|-----|------|------------|-----|------|
| 第1位 | 佐藤里江 | 日本獣医生命科学大学 | 桜心 | 241点 |
| 第2位 | 佐々木愛 | 日本大学 | スワン | 228点 |
| 第3位 | 田中啓史 | 慶応義塾大学 | 桜心 | 223点 |

●第5競技HORSY杯障害飛越競技90cm

| 順位 | 氏名 | 所属 | 乗馬 | 総得点 |
|-----|------|--------|-----|---------------|
| 第1位 | 大橋優 | 慶応義塾大学 | 桜閃 | 233点 |
| 第2位 | 榎原昌法 | 法政大学 | バリオ | 214点 |
| 第3位 | 南保隆人 | 日本大学 | 桜閃 | 235点(タイム減点1点) |

レポートと写真=日本大学馬術部

参加大学(50音順)

麻布大学、慶応義塾大学、慶応義塾大学医学部、筑波大学、東京大学、東京農業大学、東京農工大学、日本獣医生命科学大学、日本大学、法政大学、早稲田大学



Arena Special

全日本学生馬術三大大会 総合優勝

2011年11月2～6日にかけて三木ホースランドパークで行われた全日本学生馬術三大大会の様子は、本誌2012年2月号にて「平成23年度全日本学生馬術大会」リポートとしてお届けした。そこでも触れたように平成23年度全日本学生馬術大会3種目総合優勝を果たしたのは日本大学馬術部。その参戦リポートが届いたのでご紹介しよう。

今回の全日本学生馬術三大大会で、日本大学馬術部は馬場個人、総合個人を勝ち取り、18年ぶりに全日本学生馬術三大大会3種目総合優勝を成し遂げた。2011年11月2日～3日に学生賞典障害飛越競技、4日～5日に学生賞典馬場馬術競技そして5日～6日にかけて学生賞典総合馬術競技、計5日間かけて行われた。障害飛越競技には主将伊藤と桜珀を先頭に2年柿澤と桜陣、3年高樽と桜春、4年鳥谷部と桜俊、そして4年上原と桜飛の5人馬で臨んだ。初日1走行目の団体成績は減点8。2日目の2走行目では、3位に付けていた関西大学が怒涛の追い上げを見せた。その結果、2日目の団体総減点は20点となり、団体成績2位という結果で最初の競技を終えた。

学生賞典馬場馬術競技は、上原と桜絆、川崎と桜士、主将伊藤とインテレット、そして4年天谷と桜橋の4人馬でチームを結成した。2日目の決勝戦では激戦の末、天谷と桜橋が優勝、続いて上原と桜絆が4位となり、本学は9年ぶりに個人優勝を果たした。

最終競技となる学生賞典総合馬術競技は、3種目の中で日本大学馬術部が最も力を注いでいる競技である。4年小野と桜勝、伊藤と桜隼、梅田と桜蓬、上原と桜鶴、そして鳥谷部と桜羅の5人馬で最終競技に望んだ。1日目の調教審査では、上原と桜鶴が最高点率66.15%を出してトップに立ち、続いて伊藤と桜隼が2位に入り2日目を迎えることとなった。そして最終日、そこでは誰もが予想もしていない出来事

が起きた。耐久審査で小野と桜勝、梅田と桜蓬が失権、そして鳥谷部と桜羅までもが人馬転により、計3人馬の失権となってしまった。伊藤と桜隼が唯一タイムインを果たすものの、上原と桜鶴は惜しくもタイムオーバーにより減点6となってしまった。この時点で伊藤と桜隼、上原と桜鶴に我々の三種目総合優勝の運命がかかった。ここまでの総合順位が伊藤と桜隼が1位、続いて2位に上原と桜鶴、その差は2.2点。最後の余力審査の末、優勝を果たしたのは上原と桜鶴だった。伊藤と桜隼は惜しくも1落下減点4、個人成績2位となった。激戦の末、本学が18年ぶりに「三種目総合優勝」を果たした。

リポートと写真＝日本大学馬術部



上/障害・個人4位の上原佑紀と桜飛。
左/障害・個人2位の主将の伊藤昌展と桜珀。



上/馬場・個人4位の上原佑紀と桜絆。
左/馬場・個人1位の天谷幸枝と桜橋。



上/総合・個人2位の伊藤昌展と桜隼。
左/総合・個人1位の上原佑紀と桜鶴。